

暖かな手 松下幹生

とても優しい 春の風  
二人で行った 姫路城  
昔のままの 天守閣  
白く輝く 白鷺の城  
迷路のような 通路を巡り  
天守の中を ぐるぐる廻り  
狭くて急な 階段昇る

彼が先立ち 登ってく  
手摺にすがり 気を付けて  
昇りきる前 あと2段  
目の前スッと 手を差しのべる  
彼の笑顔が 逆光となり  
後光が差した 彼の手のひら  
心表す 手の暖かさ

暖かい手は 昔から  
冷たい人と 言われてる  
そんな格言 気にならず  
暖かい手の 温度のままに  
彼の性格 人を思って  
気持ちを汲んで 掬ってるよな  
胸の奥から 暖かい人